第5回環境基本計画　市民ワークショップ

じぶん × 未来 × ぶんじ

～自分ごととして考える未来の国分寺の環境～

1964→2024

この街が好き、ずーっと一緒。

祝国分寺市制60周年

令和６年８月17日

国分寺市まちづくり部まちづくり計画課

背景画像：Google Earth

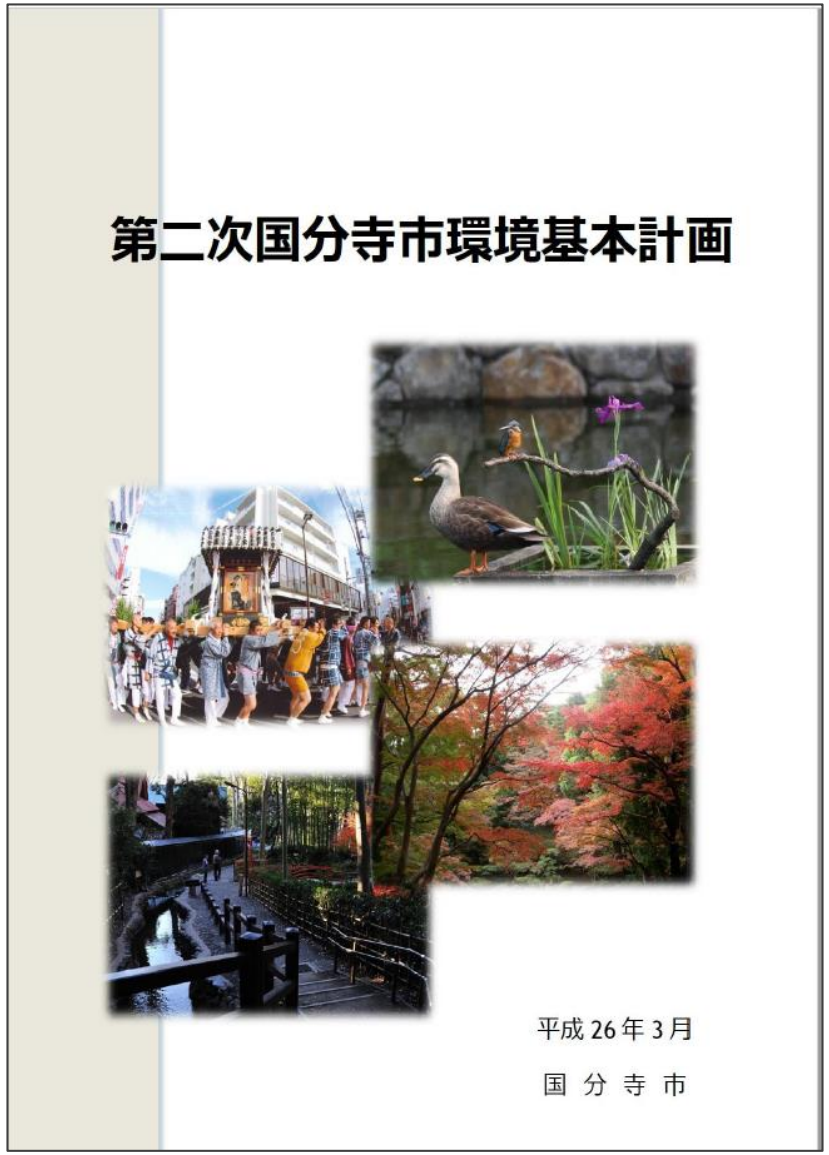
今日のプログラム

時間	内　　容	
10:00～	開会あいさつ	3分
10:03～	1　これまでの振り返り 2　基本戦略（新しい施策体系）・施策の展開 3　国分寺の未来の環境の姿 4　グループワークの進め方	27分
10:30～	アイスブレイク	5分
10:35～	（1）基本戦略（案）に関する概要説明・質疑応答 （2）グループでの意見交換 ①具体的な取組・目標　※施策の展開（案） ②国分寺の未来の環境の姿（全体） ③発表準備（ワークシート完成、発表者選出）	88分
12:03～	発表・質疑応答	24分
12:27～	今後のお知らせ、アンケートのお願い	3分

事前説明

グループワーク

環境基本計画とは･･･



国分寺市環境基本計画は,

→**市の環境施策を総合的かつ計画的に進めるための計画**です。

近年、社会状況は大きく変化、新たな環境問題への対応が求められています。

→**深刻な地球温暖化、生物多様性の危機**など

現行の計画が令和７年３月で計画期間を満了することから、**令和5･6年度の2か年をかけて計画の改定作業**を行っています。

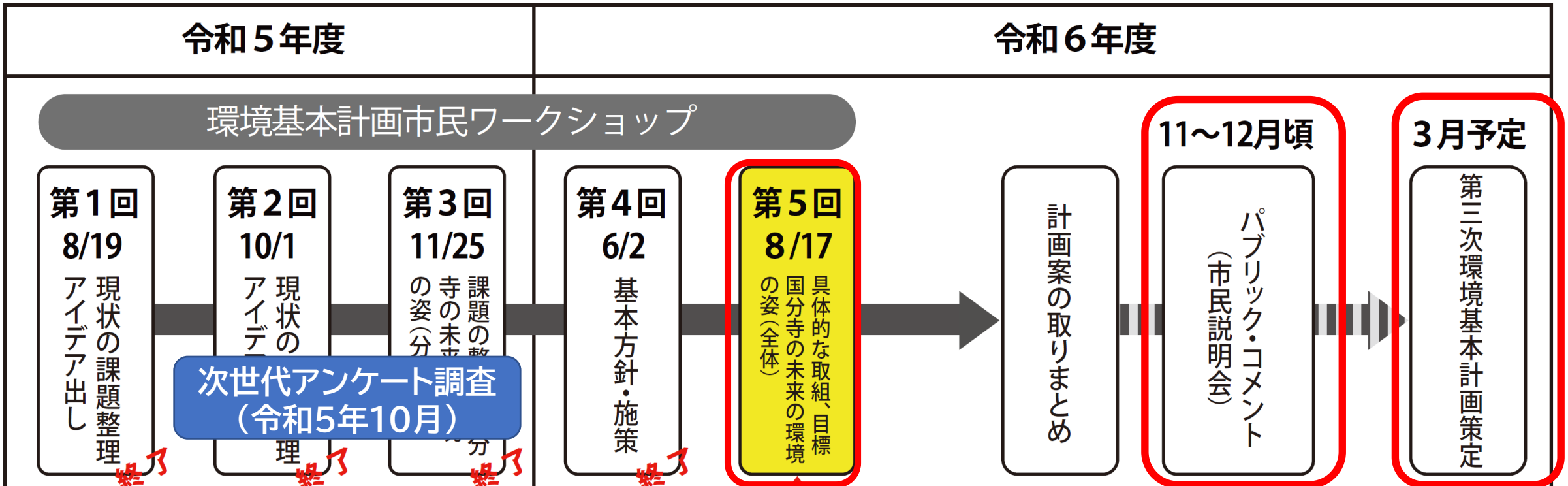
市民ワークショップの目的・本日の進め方

本ワークショップは、市民の皆さまと一緒に新しい環境基本計画を検討するために開催するものです。

最終回の第５回は

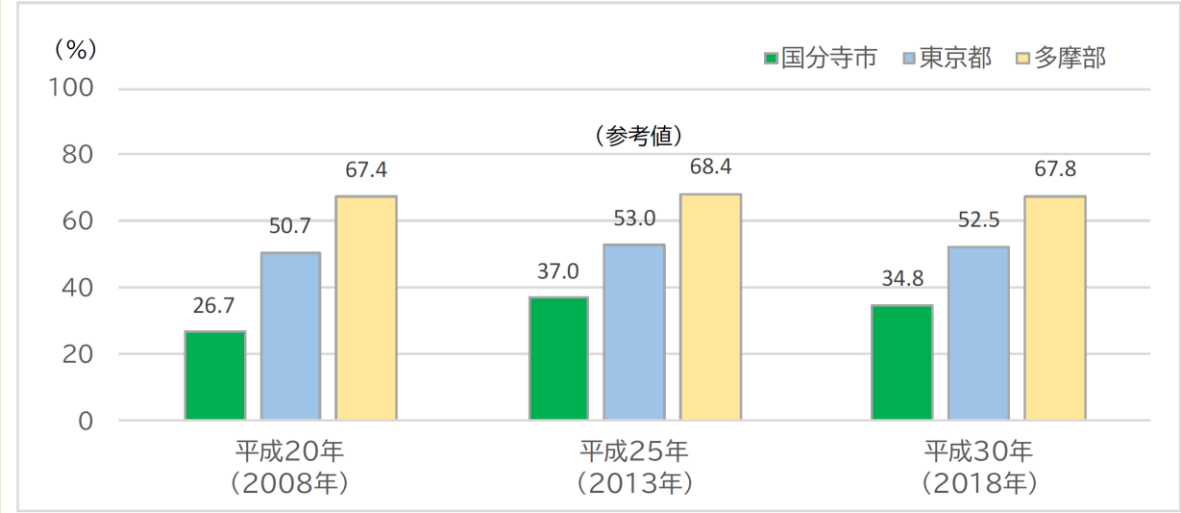
「具体的な取組・目標、国分寺の未来の環境の姿（全体）」

について議論します。



第1回市民ワークショップ（自然環境）

国分寺市の自然環境



みどり率の減少

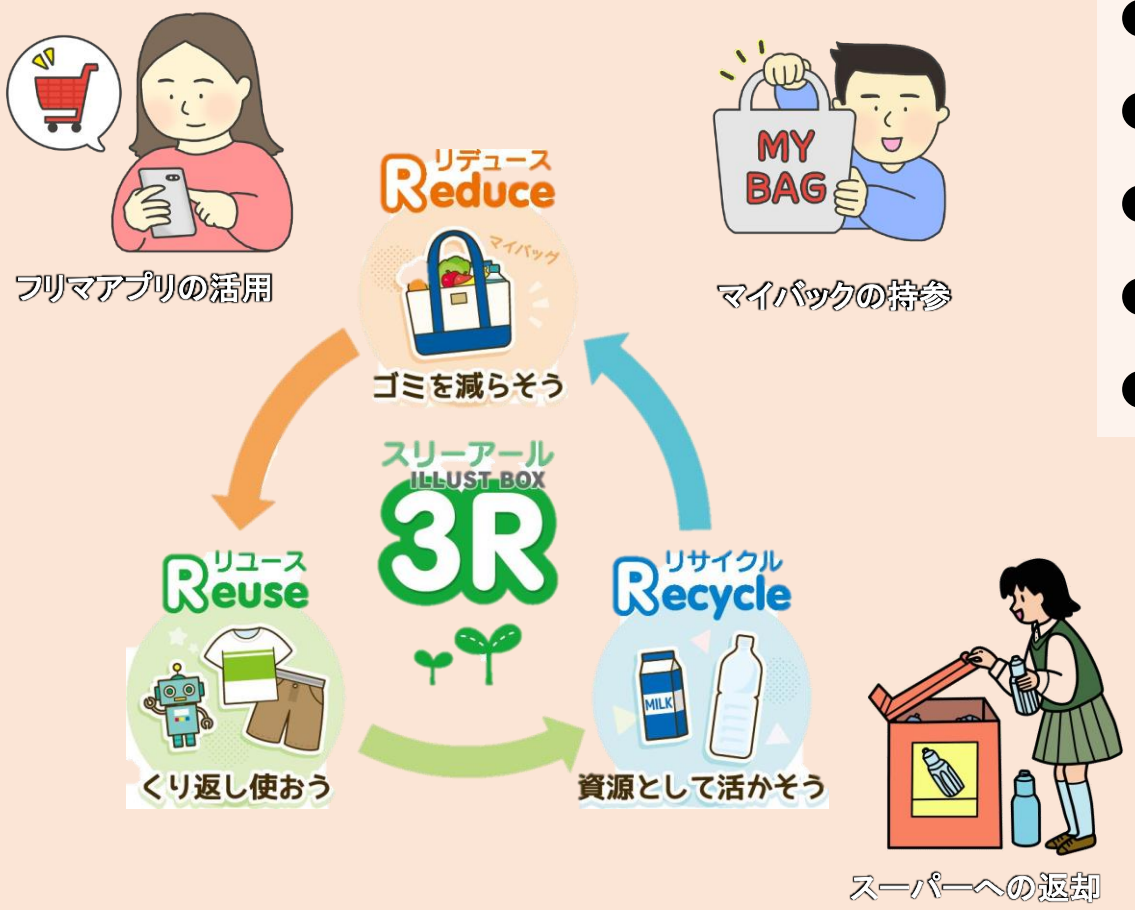
主な意見（抜粋）

- 湧水や用水、農地や樹林地が残っているので、保全したい
- 地産地消（こくベジ）を普及・拡大したい
- 子どもたちに「こくベジ」を広める（食育）
- 生きものが減った・生態系の変化を感じる
- ふれあい・体験の場の充実　など

※詳しくは、資料3をご覧ください

第1回市民ワークショップ（循環型社会）

循環型社会の形成



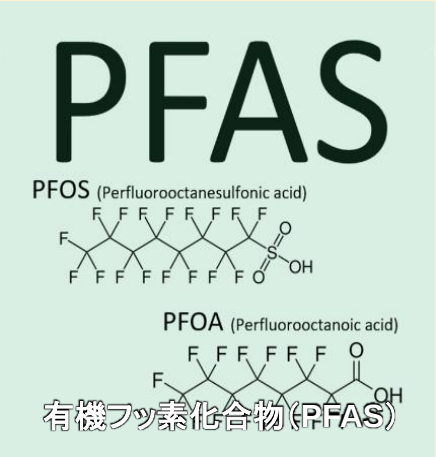
主な意見（抜粋）

- プラスチックの使用削減
- リユースの手助けが必要
- ごみ資源物の分別方法が分かりにくい
- 生ごみのたい肥化を促進したい
- 3R効果を見える化して意識向上　など

※詳しくは、資料3をご覧ください

第2回市民ワークショップ（生活環境）

国分寺市の生活環境



主な意見（抜粋）

- 生活環境での大きな課題が少ないまち
- 有機フッ素化合物（PFAS）が心配
- 歩行者や自転車が利用しづらいまち
- 中学校給食（食育）
- 雨水浸透などの機能を持つグリーンインフラを積極的に展開
- 野川の整備　など

※詳しくは、資料3をご覧ください

第2回市民ワークショップ（環境教育・環境学習）

国分寺市の環境教育・環境学習

環境教育は学校の授業が主体
というアンケート結果

次世代アンケート 環境学習・環境活動の経験

No.	項目	①学校の授業のなかで経験した
1	地球温暖化や野生生物の減少など環境問題に関する学習会	67.9%
2	生きもの観察会など地域の自然にふれあう体験学習	47.1%
3	農作物の収穫体験	65.4%

主な意見（抜粋）

- 情報が届かないので、情報発信の工夫
- 楽しみながら学べる工夫
- 環境教育が根付いていない
- 学校と連携した取組が必要
- 市と市民団体との協働
- 市民団体の高齢化・参加者減
- 環境活動の体系化・見える化　　など

※詳しくは、資料3をご覧ください

第3回市民ワークショップ（未来の国分寺の姿）

2050年のありたい未来の姿

【自然環境】
- 水と樹木でむすぶネットワークのある国分寺
- こくベジのある国分寺　など

【循環型社会】
- ごみゼロでクリーンなまち
- 生ごみからモノができるまち

【生活環境】
- おいしい水の国分寺
- 誰でも安全に移動できるまち　など

【環境教育・環境学習】
- 子育てしやすい国分寺
- 子どもが誇れる楽しい国分寺

2030年のあるべき未来の姿

【自然環境】
- 水と緑、生きもの
- 農地、農業　など

【循環型社会】
- ごみ（排出量）が半減している
- 生ごみたい肥化が進んでいる

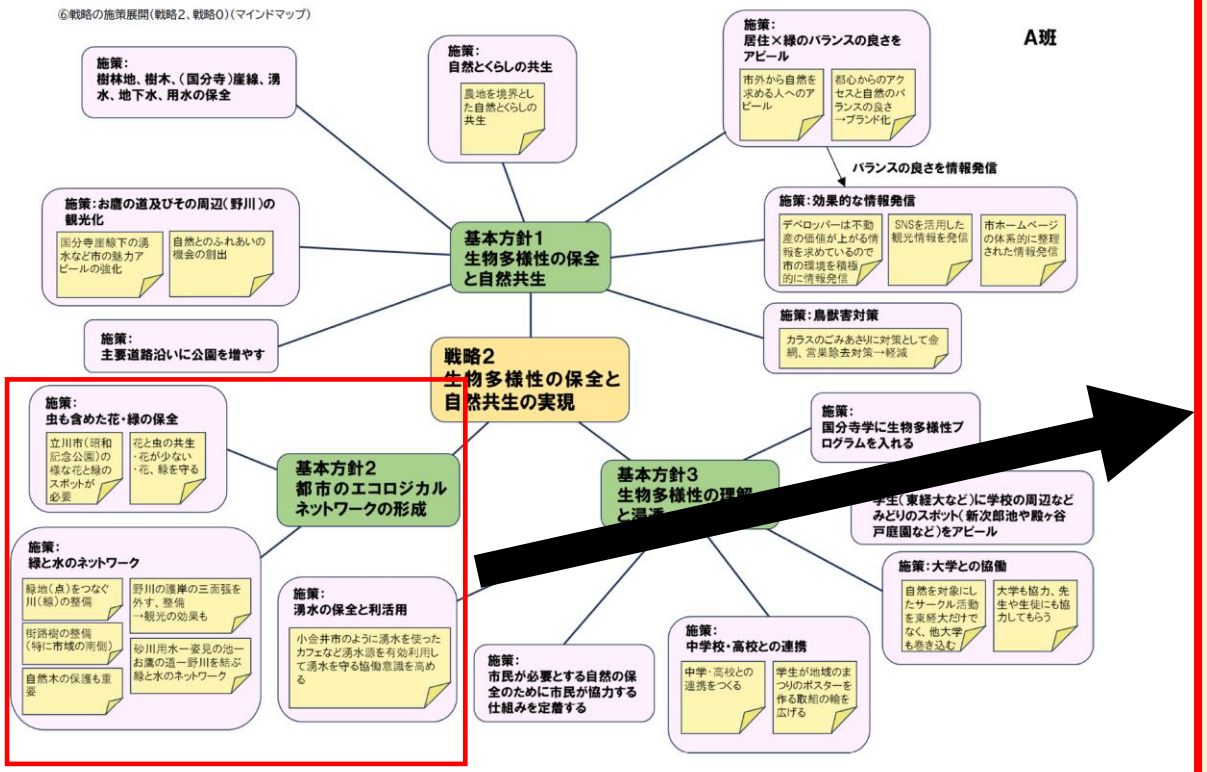
【生活環境】
- おいしい水の国分寺
- 誰でも安全に移動できるまち

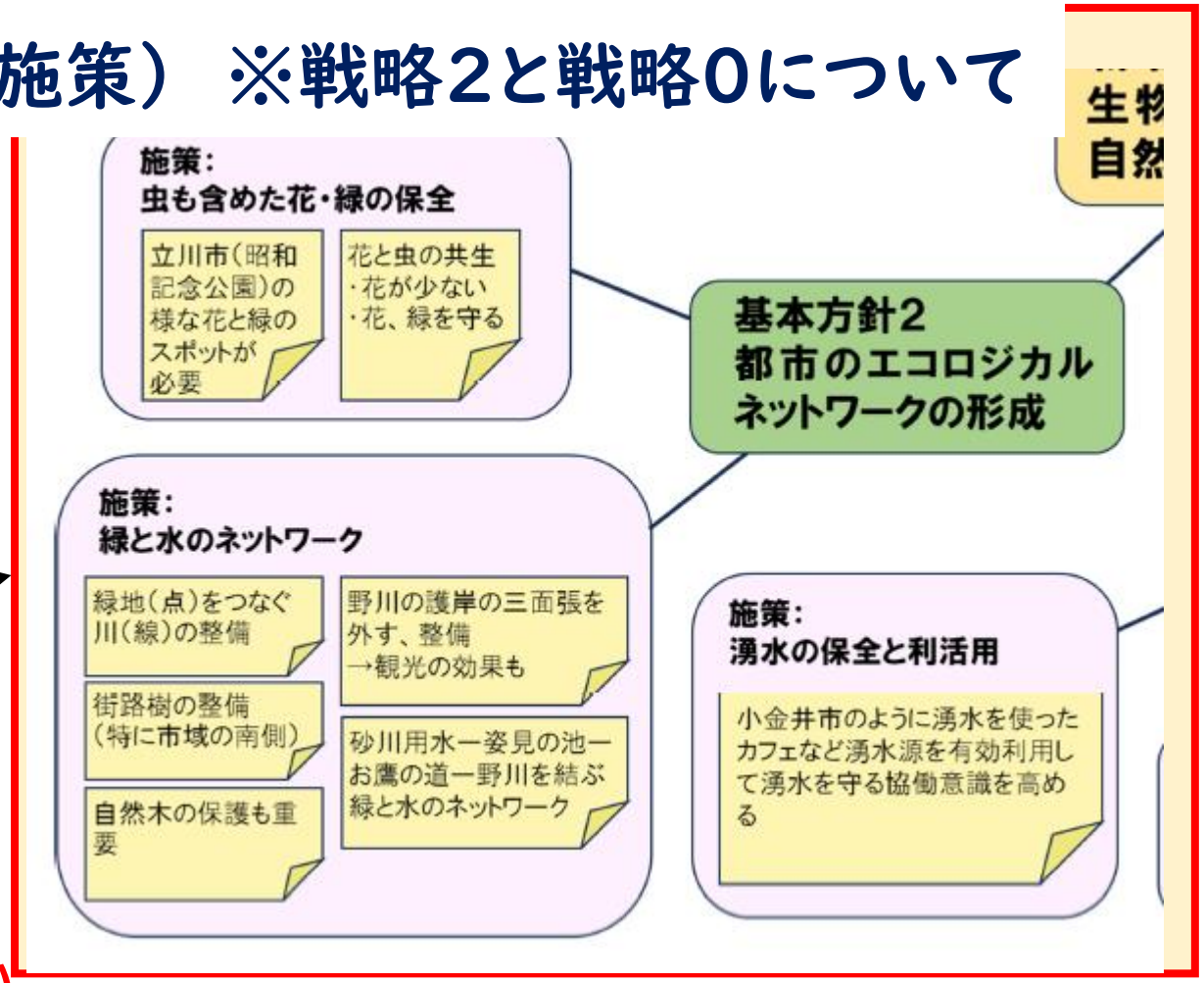
【環境教育・環境学習】
- 子どもが誇れる楽しい国分寺を実現するための取組　※詳しくは、資料3をご覧ください

第4回市民ワークショップ

「2030年の国分寺の環境のためにできること・すべきこと」

（基本方針・施策） ※戦略2と戦略0について





※詳しくは、資料3をご覧ください

市の概況（自然・人口・土地利用・産業）

前計画の進捗
環境の変化

市民ワークショップ
（意見・アイデア等）

次世代アンケート調査
（意識調査）

国内外の動向
（気候変動・生物多様性の損失）

現状と課題の整理

※詳しくは、資料4をご覧ください

視点の整理

基本戦略

※詳しくは、資料5をご覧ください

基本戦略（新しい施策体系）（案）を考える視点

（1）2050年を見据えた2030年までの到達点を目標設定

・地球温暖化対策、生物多様性の保全→世界的に差し迫った課題

↓

国際的に令和12（2030）年までの行動が極めて重要

（2）社会情勢や地域特性、喫緊の課題を踏まえた戦略的施策

・2050年の長期的な視点を持ちつつ、総合的かつ計画的に目標を達成するため、

喫緊の課題に応じた施策の選択と集中が必要

（3）国分寺の環境を次世代につなぐ基盤づくり

・全ての環境は、人間活動の影響を受ける　⇒　**一人ひとりの行動変容が重要**

↓

環境への興味・関心 ⇒ 学びを通じた自発的行動 ⇒ 多様な人々との連携・協働

による活動の輪を広げる　**プラットフォームづくりとなる（基盤）戦略ゼロの設定**

基本戦略（修正案）

※詳しくは、資料5をご覧ください

4つの戦略	基本戦略 2050年の姿	2030年の姿	環境学習・行動変容	地球環境	自然環境	循環型社会	生活環境
戦略1	脱炭素化と循環型社会の形成によるゼロカーボンシティの実現	温室効果ガス排出量 50%削減 さらなる高み60% （2013年度比）	基本方針1-1 脱炭素ムーブメントの創出 ●脱炭素型スタイル転換 ●連携・協働による脱炭素社会の実現	基本方針1-2 省エネ化と再エネ導入の促進 ●住まい・建物、設備・機器等の省エネ化の普及促進 ●再エネ導入の促進	基本方針1-3 緑の保全・創出 ●市域の緑の保全・創出 ●広域連携による緑保全・創出 基本方針1-6 気候変動への適応 ●自然生態系の変化の把握・対応その他適応策	基本方針1-4 循環型社会の形成 ●資源循環の推進 ●地域経済循環の推進	基本方針1-5 脱炭素の視点でのまちづくり ●ウォーカブルシティ ●環境に負荷のない移動 基本方針1-6 気候変動への適応 ●猛暑・熱中症への対策 ●自然災害被害防止軽減
戦略2	人と自然と多様な生きものが共生するまちの実現	生物多様性の認知度が向上し、生物多様性と自然共生の理解が進んでいる	基本方針1 国分寺の自然と生物多様性への誇りと愛着の醸成 ○国分寺の自然と生きものの魅力を発信 ○生物多様性の理解と浸透	基本方針1-6（再掲） 気候変動への適応	基本方針2-2 生物多様性の保全 ○生きものの生息状況把握 ○生きものの生息・生育環境の質の向上 ○市域の緑の保全・創出	基本方針2-3 地域資源の循環による自然共生 ○公園・緑地における段階的な萌芽更新と間伐材等の利活用	基本方針2-4 生物多様性の視点でのまちづくり ○生きものネットワーク ○都市整備における生物多様性への配慮
戦略3	誰もが安全・安心で健康に生活できる住みやすいまちの実現	環境基準を達成した安全・安心で健康な生活環境が実現している	基本方針3-1 安全・安心につながる情報提供 ○生活環境に関する情報提供の充実	基本方針1-6（再掲） 気候変動への適応	基本方針2-4（再掲） 生物多様性の視点でのまちづくり	基本方針3-2 まちの美化の推進 ○清潔で快適なまちの保持	基本方針3-3 健康な生活環境の実現 ○モニタリングや適正管理による環境負荷の低減
戦略0	国分寺の環境を次世代につなぐ基盤の形成	環境に学ぶ機会が充実し、多くの市民が学びや体験の場に参加し、それらを通じて環境の活動の輪が広がっている。	基本方針1 知識・理解・関心の底上げ（見る・知る） ○国分寺の環境に関する情報の効果的な発信 ○はじめての一歩を後押しする情報提供	基本方針2 学びを通じた自分ごと化（気付く） ○学びの場・体験の場の創出 ○学びの体系化	基本方針3 自発的な活動（行動する） ○学びの場・体験の場を通じた人材育成とつながりづくり ○環境活動の支援	基本方針4 多様な主体によるパートナーシップの充実・強化（つながる・広がる） ○多様な主体と連携した環境活動及び魅力のある地域づくりの推進	

※国分寺市ゼロカーボン行動計画（令和6年3月策定）

※戦略0（ゼロ）は、戦略1から3の基盤となる戦略

国分寺市ゼロカーボン行動計画

～オール国分寺で取り組む脱炭素社会～

（令和６年３月策定）

（ゼロカーボンシティ表明時の市長と環境大臣からのメッセージ）

国分寺市ゼロカーボン行動計画の検討
（国分寺市脱炭素未来ワークショップ）

・令和５年５月21日（日）

・令和５年７月22日（土）

削減目標（p.36）

長期目標

2050年までに市域の温室効果ガス排出量を実質ゼロにします。

中期目標［本計画期間の目標］

2030年度において，2013年度比で温室効果ガス排出量を50%削減します。

また，さらなる高みを目指し，60%削減に向けて，意欲的に取組を進めます。

第三次環境基本計画　施策の展開
（戦略１に基づく施策の展開）

戦略１　脱炭素化と循環型社会の形成によるゼロカーボンシティの実現

国分寺市ゼロカーボン行動計画

２０３０年の姿

温室効果ガス排出量 50%削減しており、さらなる高みを目指し 60%削減に向けて意欲的に取組を推進している（2013 年度比）

◆ 成果指標

指標	基準値	2030 年度の目標
市内の温室効果ガス排出量	376 t-CO_2 （2013 年度）	187 t-CO_2 （2013 年度比 50%削減）

施策体系

戦略１　脱炭素化と循環型社会の形成によるゼロカーボンシティの実現

- 基本方針１-１　脱炭素ムーブメントの創出
  - 施策１-１-１ 脱炭素型スタイルへの転換
  - 施策１-１-２ 連携・協働による脱炭素社会の実現
- 基本方針１-２　省エネ化と再エネ導入の推進
  - 施策１-２-１住まい・建物、設備・機器の省エネ化の普及促進
  - 施策１-２-２再エネ導入の促進
- 基本方針１-３　緑の保全・創出
  - 施策１-３-１ 市域の緑の保全・創出
  - 施策１-３-２ 広域連携による緑の保全・創出
- 基本方針１-４　循環型社会の形成
  - 施策１-４-１ 資源循環の推進
  - 施策１-４-２ 地域経済循環の推進
- 基本方針１-５　脱炭素の視点でのまちづくり
  - 施策１-５-１ ウォーカブルシティの形成
  - 施策１-５-２ 環境に負荷をかけない移動手段の促進
  - 施策１-５-３ 都市整備等の機を捉えたまちの脱炭素化の促進
- 基本方針１-６　気候変動への適応
  - 施策１-６-１ 猛暑・熱中症への対策
  - 施策１-６-２ 自然災害による被害の防止・軽減
  - 施策１-６-３ 自然生態系の変化の把握・対応その他適応策

戦略1の基本方針に基づく施策・取組を行うことによって、成果指標に定める

「市内の温室効果ガス排出量を、2030年度までに187トンの二酸化炭素排出量を削減する」

ことを目指す

※詳しくは、配付資料６をご覧ください

第三次国分寺市環境基本計画　施策の展開（案）

戦略１　脱炭素化と循環型社会の形成によるゼロカーボンシティの実現

国分寺市ゼロカーボン行動計画

２０３０年の姿

温室効果ガス排出量 50%削減しており、さらなる高みを目指し 60%削減に向けて意欲的に取組を推進している（2013 年度比）

◆ 成果指標

指標	基準値	2030 年度の目標
市内の温室効果ガス排出量	376 t-CO_2 （2013 年度）	187 t-CO_2 （2013 年度比 50%削減）

戦略１の施策の展開

戦略１　脱炭素化と循環型社会の形成によるゼロカーボンシティの実現

基本方針１-１　脱炭素ムーブメントの創出

施策１-１-１ 脱炭素型スタイルへの転換

① 脱炭素型スタイルの普及啓発（地球温暖化、省エネ行動、再生可能エネルギー利用
② 効果の見える化の推進（簡易型電力表示器・環境家計簿・脱炭素アプリ等）
③ 市民の行動変容を促す環境教育・環境学習の推進

施策１-１-２ 連携・協働による脱炭素社会の実現

① 産学官民連携のプラットフォーム整備によるＧＸ推進
② 脱炭素分野の市内事業者の起業及びイノベーション支援

基本方針１-２　省エネ化と再エネ導入の促進

施策１-２-１住まい・建物、設備・機器の省エネ化の普及促進

① 既存建築物の断熱化の普及促進
② 建築物の省エネルギー化、長期優良、低炭素の各種制度に係る認定
③ 高効率な家電や給湯器、その他設備・機器の導入支援
④ ＺＥＨ、ＺＥＢの情報提供
⑤ HEMS、ＢＥＭＳ等の情報提供

施策１-２-２再エネ導入の促進

① 太陽光発電設備や蓄電池等の普及促進
② ＰＰＡモデルの情報発信
③ 再エネ電力への切替え促進
④ 再生可能エネルギー利用の普及啓発
⑤ 広域連携による再生可能エネルギー利用促進に向けた検討（地域間融通等）
⑥ 熱利用による再生可能エネルギーや水素等次世代エネルギーに係る情報収集・発信、導入検討

基本方針１-３　緑の保全・創出

施策１-３-１ 市域の緑の保全・創出

① 保存樹木の指定及び保存樹林地制度による保全
② 市民活動団体・事業者等との連携・協働による緑地の維持管理の推進
③ 事業所の屋上緑化や敷地内緑化の普及啓発
④ 生け垣造成への支援
⑤ 生産緑地の追加指定の推進
⑥ 農業体験農園の支援
⑦ 援農ボランティアの推進
⑧ 緑を始めとした自然環境が持つ多様な機能を生かすグリーンインフラの整備推進

施策１-３-２ 広域連携による緑の保全・創出

① 姉妹都市・友好都市等の連携によるカーボン・オフセット事業の推進
② 建築物の新築・更新時の多摩産材や姉妹都市・友好都市等の木材の利活用推進

基本方針１-４　循環型社会の形成

施策１-４-１ 資源循環の推進

① ごみ減量・資源化の推進
② ３Ｒ講座による地域ボランティアの育成
③ ごみ分別アプリやごみ・リサイクルカレンダーによる適切な分別の普及啓発
④ リサイクル推進協力店制度の拡充・普及啓発
⑤ 連携による水平リサイクルの推進（ボトル to ボトル等）
⑥ 生ごみの集団回収・堆肥化の推進
⑦ 使い捨てプラスチックの削減、バイオプラスチック製品等の環境配慮製品の選択の推進
⑧ 連携による食品ロス対策の推進

施策１-４-２ 地域経済循環の推進

① 学校給食等における地場産農畜産物の利用推進
② 地場産農畜産物販売の支援
③ 地場産農畜産物を生かした食の普及（野菜等の情報発信、地産地消の推進、イベント出展）
④ 農に身近に触れる機会の提供（農ウォーク等）

基本方針１-５　脱炭素の視点でのまちづくり

施策１-５-１ ウォーカブルシティの形成

① 鉄道・バス等の公共交通機関及び自転車の利用促進
② シェアサイクルの普及啓発
③ ウォーカブルな空間の形成

施策１-５-２ 環境に負荷をかけない移動手段の促進

① ZEVの普及促進・情報提供
② 電気自動車給電設備設置の促進
③ 地域バスのＺＥＶ化に向けた検討

施策１-５-３ 都市整備等の機を捉えたまちの脱炭素化の促進

① 自治会等の街灯のＬＥＤ化更新支援
② 再エネ促進区域制度の指定に向けた検討
③ ICT を活用したまちづくりに向けた検討

基本方針１-６　気候変動への適応

施策１-６-１ 気候変動による影響についての情報発信・対策実施

① 市民への熱中症予防に関する注意喚起
② 気候変動に伴う感染症に関する情報収集・発信
③ 涼み処の拡充・情報発信
④ 緑のカーテンや打ち水等の推進
⑤ 保水性・遮熱性舗装の整備推進

施策１-６-２ 自然災害による被害の防止・軽減

① 地域防災計画に基づく災害発生時の体制整備
② ハザードマップの周知や訓練の実施等による防災対策の推進
③ 防災まちづくり学校や出前講座等を通じた風水害への備えの普及啓発
④ 防災対策の視点による太陽光発電機器、蓄電池、家庭用燃料電池の普及啓発
⑤ 雨水浸透施設の設置推進
⑥ 透水性舗装の整備推進

施策１-６-３ 自然生態系の変化の把握・対応その他適応策

① 気候変動の影響に関する情報の収集・発信
② 動植物調査等による生物季節や生息分布域の変化についての情報収集
③ 生物多様性に関する情報収集・発信
④ 外来生物に関する情報発信
⑤ 外来生物対策の実施

基本方針１-１　脱炭素ムーブメントの創出

【進捗管理の指標】

指標	現状値	2030 年度の目標
市内のエネルギー消費量(2013 年度比)	3,314TJ※1 (2020 年度)	50%削減 (2013 年度比※2)

※1 出典:みどり東京温暖化防止プロジェクト「多摩地域の温室効果ガス排出量(1990～2020 年度)」
※2 2013 年度市内エネルギー消費量 3,256TJ [出典]※1 同

施策 1-1-1　脱炭素型スタイルへの転換

【取組】

① 脱炭素型スタイルの普及啓発(地球温暖化、省エネ行動、再生可能エネルギー利用等)
② 効果の見える化の推進(簡易型電力表示器・環境家計簿・脱炭素アプリ等)
③ 市民の行動変容を促す環境教育・環境学習の推進

施策 1-1-2　連携・協働による脱炭素社会の実現

【取組】

① 産学官民連携のプラットフォーム整備によるGX推進

戦略1の基本方針に基づく施策・取組については、

資料6の2ページから6ページをご覧ください。

基本方針ごとに施策の進捗管理の指標(案)を記載しています。

※1 出典:環境省「自治体排出量カルテ」

施策 1-2-1　住まい・建物、設備・機器の省エネ化の普及促進

【取組】

① 既存建築物の断熱化の普及促進
② 建築物の省エネルギー化、長期優良、低炭素の各種制度に係る認定
③ 高効率な家電や給湯器、その他設備・機器の導入支援
④ ZEH、ZEBの情報提供
⑤ HEMS、BEMS等の情報提供

第三次環境基本計画　施策の展開
（戦略２に基づく施策の展開）

戦略２　人と自然と多様な生きものが共生するまちの実現

国分寺市生物多様性地域戦略

２０３０年の姿

生物多様性の認知度が向上し、生物多様性と自然共生の理解が進んでいる

◆ 成果指標

指標	現状値	2030 年度の目標
生物多様性の認知度 （次世代アンケート）	「生物多様性」の言葉の意味を知っている※1　51.1% （2023 年度）	60.0%
市民アンケート調査による市の取組に対する満足度	自然環境の保護・保全について満足と回答した人の割合※2　31.7% （2023 年度）	50.0%

※1 次世代アンケートの数値（「言葉の意味を知っていた」と回答した割合）
※2 市民アンケートの問 54「これまでの取組」のうち、「自然環境の保護・保全」の項目で「満足している」「やや満足している」を選択し人の割合

施策体系

戦略２　人と自然と多様な生きものが共生するまちの実現

- 基本方針２-１　国分寺の自然と生物多様性への誇りと愛着の醸成
  - 施策２-１-１ 国分寺の自然と生きものの魅力を発信
  - 施策２-１-２ 生物多様性の理解と浸透
- 基本方針１-６（再掲）気候変動への適応
  - 施策１-６-３（再掲）自然生態系の変化の把握・対応その他適応策
- 基本方針２-２　生物多様性の保全
  - 施策２-２-１ 生きものの生息状況の把握
  - 施策２-２-２ 生きものの生息・生育環境の質の向上
  - 施策１-３-１（再掲）市域の緑の保全・創出
- 基本方針２-３　地域資源の循環による自然共生
  - 施策２-３-１ 公園・緑地における段階的な萌芽更新と間伐材等の利活用
- 基本方針２-４　生物多様性の視点でのまちづくり
  - 施策２-４-１ 生きものネットワークの形成
  - 施策２-４-２ 都市整備における生物多様性への配慮

戦略2の基本方針に基づく施策・取組を行うことによって、成果指標に定める

①「生物多様性の認知度」を60%まで

②「市の取組（自然環境の保護・保全）に対する満足度」を50%まで

高めることを目指す

戦略２　人と自然と多様な生きものが共生するまちの実現

国分寺市生物多様性地域戦略

２０３０年の姿

生物多様性の認知度が向上し、生物多様性と自然共生の理解が進んでいる

◆ 成果指標

指標	現状値	2030 年度の目標
次世代アンケート調査における生物多様性の認知度	「生物多様性」の言葉の意味を知っている※10　51.1% （2023 年度）	60.0%
市民アンケート調査による市の取組に対する満足度	自然環境の保護・保全について満足と回答した人の割合※11　31.7% （2023 年度）	50.0%

※10　次世代アンケート調査の数値（「言葉の意味を知っていた」と回答した割合）

※11　国分寺市市民アンケート調査の数値（「自然環境の保護・保全」の項目で「満足している」「やや満足している」と回答した割合

戦略２の施策の展開

戦略２　人と自然と多様な生きものが共生するまちの実現

		取組
基本方針２-１　国分寺の自然と生物多様性への誇りと愛着の醸成	施策２-１-１ 国分寺の自然と生きものの魅力を発信	①　生物多様性や自然共生の視点による国分寺の魅力の発信 ②　国分寺の自然や生物多様性の現況の見える化・一元化
	施策２-１-２ 生物多様性の理解と浸透	①　生物多様性の理解と行動変容を促すための普及啓発 ②　生物多様性に関わる体験・学習の場づくり
基本方針１-６　（再掲）気候変動への適応	施策１-６-３　（再掲）自然生態系の変化の把握・対応その他適応策	①　気候変動の影響に関する情報の収集・発信 ②　動植物調査等による生物季節や生息分布域の変化についての情報収集 ③　生物多様性に関する情報収集・発信 ④　外来生物に関する情報発信 ⑤　外来生物対策の実施
基本方針２-２　生物多様性の保全	施策２-２-１　生きものの生息状況の把握	①　専門員による動植物調査の実施 ②　市民参加型の生きもの調査の実施
	施策２-２-２　生きものの生息・生育環境の質の向上	①　国分寺崖線の保全 ②　生物多様性に配慮した公園・緑地の維持管理方法の研究・推進 ③　湧水、水辺環境の定期的な調査と維持保全 ④　希少種・在来種の保護 ⑤　外来種防除に関する普及啓発（講習会、方針など）
	施策１-３-１　（再掲）市域の緑の保全・創出	①　保存樹木の指定及び保存樹林地制度による保全 ②　市民活動団体・事業者等との連携・協働による緑地の維持管理の推進 ③　事業所の屋上緑化や敷地内緑化の普及啓発 ④　生け垣造成への支援 ⑤　生産緑地の追加指定の推進 ⑥　農業体験農園の支援 ⑦　援農ボランティアの推進 ⑧　緑を始めとした自然環境が持つ多様な機能を生かすグリーンインフラの整備推進
基本方針２-３　地域資源の循環による自然共生	施策２-３-１　公園・緑地における段階的な萌芽更新と間伐材等の利活用	①　段階的な萌芽更新による多様な生きものの生息・生育環境の創出 ②　多様な主体と連携した間伐材等の循環利用による里山的環境の維持管理
基本方針２-４　生物多様性の視点でのまちづくり	施策２-４-１　生きものネットワークの形成	①　生きものネットワークを形成するための緑化手引きの作成 ②　公園緑地等の拠点をつなぐ小さな生きもの空間づくりの促進
	施策２-４-２　都市整備における生物多様性への配慮	①　生物多様性に配慮した公共・公益施設の緑化推進 ②　生物多様性に配慮した民有地の緑化促進

基本方針２-１　生物多様性の保全と自然共生への誇りと愛着の醸成

【進捗管理の指標】

指標	現状値	2030 年度の目標
次世代アンケートにおける国分寺崖線の認知度	国分寺崖線を知っていたと回答した人の割合※1　30.8% （2023 年度）	45.0%
生物多様性や自然に関する情報の一元管理	―	ホームページのリニューアル
生物多様性や自然に関する情報発信回数	―	4回/年

※1 次世代アンケート問3「国分寺崖線の認知度」の項目で「知っています」と選択した人の割合

施策 2-1-1　国分寺の自然と生きものの魅力を発信

【取組】

① 生物多様性や自然共生の視点による国分寺の魅力の発信

② 国分寺の自然や生物多様性の現況の見える化・一元化

戦略2の基本方針に基づく施策・取組については、

資料6の8ページから10ページをご覧ください。

基本方針ごとに施策の進捗管理の指標（案）を記載しています。

【進捗管理の指標】

指標	現状値	2030 年度の目標
専門員調査による動植物の確認数	総種数 1,319 種 （2023 年度第 2 回調査）	増加 （第3回調査）
	国・都レッドリスト掲載種の確認種数 48 種 （2023 年度第 2 回調査）	現状維持 （第3回調査）
湧水地等の水量調査	湧水の流量測定8地点 流量の経年変化に著しい変化なし （2023 年度）	現状維持

第三次環境基本計画　施策の展開
（戦略３に基づく施策の展開）

戦略３　誰もが安全・安心で健康に生活できる住みやすいまちの実現

２０３０年の姿

環境基準を達成した安全・安心で健康な生活環境を実現している

◆ 成果指標

指標	現状値	2030 年度の目標
大気、水質、騒音・振動の4分野における環境目標値達成度	大気:7 地点/7 地点達成	現状維持
	水質（井戸水調査）:18 地点/20 地点達成	改善
	騒音:要請限度 7 地点/7 地点達成 環境基準 4 地点/7 地点達成※1	改善
	振動:7 地点/7 地点達成	現状維持
市民アンケートにおける満足度	国分寺市のまちづくり「生活環境の保全」を満足※2と選択した割合 19.7%（2023 年度）	40.0%

※1　環境基準とは、人の健康の保護及び生活環境の保全にために望ましい基準であり、大気、水質、土壌及び騒音に環境基準が定められている。
要請限度とは、自動車排ガスによる大気汚染[illegible]により、道路の周辺の生活環境が著しく損なわれていると知事又は市町村長が認めるとき、道路[illegible]には公安委員会に対しその改善を要請する際の基準である。騒音・振動調査7地点のうち、3地点[illegible]準を下回っているものの、要請限度は達成している。
※2 市民アンケート問 54 で「満足」、「やや満足」を選[illegible]の割合（ただし、「分からない」「無回答」を除く）。

施策体系

戦略３　誰もが安全・安心で健康に生活できる住みやすいまちの実現

- 基本方針３-１　安全・安心につながる情報提供
  - 施策３-１-１ 生活環境に関する情報提供の充実
- 基本方針１-６（再掲）気候変動への適応
  - 施策１-６-１（再掲）猛暑・熱中症への対策
  - 施策１-６-２（再掲）自然災害による被害の防止・軽減
- 基本方針２-４（再掲）生物多様性の視点でのまち
  - 施策２-４-１（再掲）生きものネットワークの形成
  - 施策２-４-２（再掲）都市整備における生物多様性への配慮
- 基本方針３-２　まちの美化の推進
  - 施策３-２-１ 清潔で快適なまちの保持
- 基本方針３-３　健康な生活環境の実現
  - 施策３-３-１ モニタリングや適正管理による環境負荷の低減

戦略3の基本方針に基づく施策・取組を行うことによって、成果指標に定める

①「大気、水質、騒音・振動の4分野における環境目標値達成度」を現状維持又は改善、

②「市民アンケートにおける満足度（生活環境の保全）」を40%まで高めることを目指す

戦略３　誰もが安全・安心で健康に生活できる住みやすいまちの実現

２０３０年の姿

環境基準を達成した安全・安心で健康な生活環境を実現している

◆ 成果指標

指標	現状値	2030 年度の目標
大気、水質、騒音・振動の4分野における環境目標値達成度	大気：7 地点/7 地点達成	現状維持
	水質（井戸水調査）：18 地点/20 地点達成	改善
	騒音：要請限度 7 地点/7 地点達成 環境基準 4 地点/7 地点達成※1	改善
	振動：7 地点/7 地点達成	現状維持
市民アンケートにおける満足度	国分寺市のまちづくり「生活環境の保全」を満足※2 と選択した割合 19.7%（2023 年度）	40.0%

※1　環境基準とは、人の健康の保護及び生活環境の保全にために望ましい基準であり、大気、水質、土壌及び

戦略３の施策の展開

戦略３　人と自然と多様な生きものが共生するまちの実現

		取　組
基本方針３-１　安全・安心につながる情報提供	施策３-１-１ 生活環境に係る情報提供の充実	①　大気、水質、騒音・振動等に関する調査結果の情報提供 ②　市民協働による防災用井戸（むかしの井戸）の簡易水質検査の実施 ③　有害化学物質の適正な管理等に関する情報提供 ④　生活騒音に関する相談先や身近な環境問題に関する情報提供
基本方針１-６　（再掲）気候変動への適応	施策１-６-１　（再掲）猛暑・熱中症への対策	①　市民への熱中症予防に関する注意喚起 ②　気候変動に伴う感染症に関する情報収集・発信 ③　涼み処の拡充・情報発信 ④　緑のカーテンや打ち水等の推進 ⑤　保水性・遮熱性舗装の整備推進
	施策１-６-２　（再掲）自然災害による被害の防止・軽減	①　地域防災計画に基づく災害発生時の体制整備 ②　ハザードマップの周知や訓練の実施等による防災対策の推進 ③　防災まちづくり学校や出前講座等を通じた風水害への備えの普及啓発 ④　防災対策の視点による太陽光発電機器、蓄電池、家庭用燃料電池の普及啓発 ⑤　雨水浸透施設の設置推進 ⑥　透水性舗装の整備推進
基本方針２-４　（再掲）生物多様性の視点でのまちづくり	施策２-４-１　（再掲）生きものネットワークの形成	①　生きものネットワークを形成するための緑化手引きの作成 ②　公園緑地等の拠点をつなぐ小さな生きもの空間づくりの促進
	施策２-４-２　（再掲）都市整備における生物多様性への配慮	①　生物多様性に配慮した公共・公益施設の緑化推進 ②　生物多様性に配慮した民有地の緑化促進
基本方針３-２　まちの美化の推進	施策３-２-１　清潔で快適なまちの保持	①　まちの美化活動の推進 ②　不法投棄やポイ捨ての防止 ③　受動喫煙防止対策の推進
基本方針３-３　健康な生活環境の実現	施策３-３-１　モニタリングや適正管理による環境負荷の低減	①　公害防止に関する環境のモニタリング調査の継続 ②　騒音・振動、化学物質等の適正な管理に関する事業者への指導・要請 ③　悪臭の発生防止 ④　生活騒音・振動対策の推進

戦略３　誰もが安全・安心で健康に生活できる住みやすいまちの実現

２０３０年の姿

環境基準を達成した安全・安心で健康な生活環境を実現している

◆ 成果指標

指標	現状値	2030 年度の目標
大気、水質、騒音・振動の4分野における環境目標値達成度	大気：7 地点/7 地点達成	現状維持
	水質（井戸水調査）：18 地点/20 地点達成	改善
	騒音：要請限度 7 地点/7 地点達成 環境基準 4 地点/7 地点達成※1	改善
	振動：7 地点/7 地点達成	現状維持
市民アンケートにおける満足度	国分寺市のまちづくり「生活環境の保全」を満足※2と選択した割合 19.7%（2023 年度）	40.0%

戦略3の基本方針に基づく施策・取組については、

資料6の12ページから13ページをご覧ください。

基本方針ごとに施策の進捗管理の指標（案）を記載しています。

- 基本方針１-６（再掲）気候変動への適応
  - 施策１-６-１（再掲）猛暑・熱中症への対策
  - 施策１-６-２（再掲）自然災害による被害の防止・軽減
- 基本方針２-４（再掲）生物多様性の視点でのまち
  - 施策２-４-１（再掲）生きものネットワークの形成
  - 施策２-４-２（再掲）都市整備における生物多様性への配慮
- 基本方針３-２　まちの美化の推進
  - 施策３-２-１ 清潔で快適なまちの保持
- 基本方針３-３　健康な生活環境の実現
  - 施策３-３-１ モニタリングや適正管理による環境負荷の低減

第三次環境基本計画　施策の展開
（戦略０に基づく施策の展開）

戦略０　国分寺の環境を次世代につなぐ基盤の形成

２０３０年の姿

環境を学ぶ機会が充実し、多くの市民が学びや体験の場に参加し、それらを通じて環境活動の輪が広がっている

◆ 成果指標

指標	現状値	2030 年度の目標
市民アンケート調査による環境に配慮した行動の割合	「生きものや自然環境の保全活動を行っている」を選択した人の割合※1 6.6% （2023 年度）	25.0%
次世代アンケートにおける環境学習・環境活動に「積極的に参加したい」と回答した割合	17.1% （2023 年度）	35.0%

※1　市民アンケート問 35 の環境に配慮した行動の項目で「生きものや自然環境の保全活動を行っている」を選択した人の割合
※2　次世代アンケート問 11 の全項目で、学校以外の[illegible]自ら進んで学んだ、参加・経験した」を選択した人の割合の平均数値

施策体系

戦略０　国分寺の環境を次世代につなぐ基盤の形成

- 基本方針０-１　知識・理解・関心の底上げ（見る・知る）
  - 施策０-１-１　国分寺の環境に関する情報の効果的な発信
  - 施策０-１-２　はじめの一歩を後押しする情報提供
- 基本方針０-２　学びを通じた自分ごと化（気付く）
  - 施策０-２-１　学びの場・体験の場の創出
  - 施策０-２-２　学びの体系化
- 基本方針０-３　自発的な活動（行動する）
  - 施策０-３-１　学びの場・体験の場を通じた人材育成とつながりづくり
  - 施策０-３-２　環境活動の支援
- 基本方針０-４　多様な主体によるパートナーシップの充実・強化（つながる・広がる）
  - 施策０-４-１　多様な主体と連携した環境活動及び魅力のある地域づくりの推進

戦略0の基本方針に基づく施策・取組を行うことによって、成果指標に定める

①「市民アンケート調査による生きものや自然環境の保全活動を行っている割合」を25%まで高める、

②「次世代アンケートにおける環境学習・環境活動に積極的に参加したい割合」を35%まで高めることを目指す

戦略０　国分寺の環境を次世代につなぐ基盤の形成

２０３０年の姿

環境を学ぶ機会が充実し、多くの市民が学びや体験の場に参加し、それらを通じて環境活動の輪が広がっている

◆ 成果指標

指標	現状値	2030 年度の目標
市民アンケート調査による環境に配慮した行動の割合	「生きものや自然環境の保全活動を行っている」を選択した人の割合※1 6.6% （2023 年度）	25.0%
次世代アンケートにおける環境学習・環境活動に「積極的に参加したい」と回答した割合	17.1% （2023 年度）	35.0%

戦略０の施策の展開

戦略０　国分寺の環境を次世代につなぐ基盤の形成

		取　組
基本方針０-１　知識・理解・関心の底上げ（見る・知る）	施策０-１-１ 国分寺の環境に関する情報の効果的な発信	①　環境に関する情報の一元化・体系化 ②　環境配慮の取組の効果や環境の変化の見える化 ③　欲しい情報が届く情報発信手法の検討（SNS、アプリ、プッシュ通知等）
	施策０-１-２ はじめの一歩を後押しする情報提供	①　対象年齢・分野・所要時間別等による体験学習の分かりやすい情報提供 ②　動画や写真、イラスト、参加者の声等を積極的に活用したイメージしやすい情報提供
基本方針０-２　学びを通じた自分ごと化（気付く）	施策０-２-１ 学びの場・体験の場の創出	①　小中学校における環境学習の支援 ②　地域をフィールドとした体験学習の機会の充実 ③　各世代に向けた体験学習の機会の提供
	施策０-２-２ 学びの体系化	①　学びの深度別や連続講座などによるプログラムの充実 ②　学びを実践行動に繋げるプログラムの検討・作成
基本方針０-３　自発的な活動（行動する）	施策０-３-１ 学びの場・体験の場を通じた人材育成とつながりづくり	①　イベント参加者や受講生などと活動団体のマッチングの促進 ②　学びの場・体験の場から発生した環境活動の支援 ③　環境アドバイザー制度による人材育成と人材活用の推進
	施策０-３-２ 環境活動の支援	①　出前講座や環境アドバイザー派遣による市民の自主的な活動支援 ②　事業者等による環境活動の支援
基本方針０-４　多様な主体によるパートナーシップの充実・強化（つながる・広がる）	施策０-４-１ 多様な主体と連携した環境活動及び魅力のある地域づくりの推進	①　樹林地等の保全や間伐材等の利活用、体験学習プログラムにおける市民団体、企業等との協働・連携による事業の推進 ②　国分寺崖線の保全における近隣自治体等との連携 ③　国分寺市の環境をより良くするための情報交換や、情報交換、活動などのためのプラットフォームづくり

戦略０　国分寺の環境を次世代につなぐ基盤の形成

２０３０年の姿

環境を学ぶ機会が充実し、多くの市民が学びや体験の場に参加し、それらを通じて環境活動の輪が広がっている

◆ 成果指標

指標	現状値	2030 年度の目標
市民アンケート調査による環境に配慮した行動の割合	「生きものや自然環境の保全活動を行っている」を選択した人の割合※1 6.6% （2023 年度）	25.0%
次世代アンケートにおける環境学習・環境活動に「積極的に参加したい」と回答した割合	17.1% （2023 年度）	35.0%

※1　市民アンケート問 35 の環境に配慮した行動の項目で「生きものや自然環境の保全活動を行っている」を選

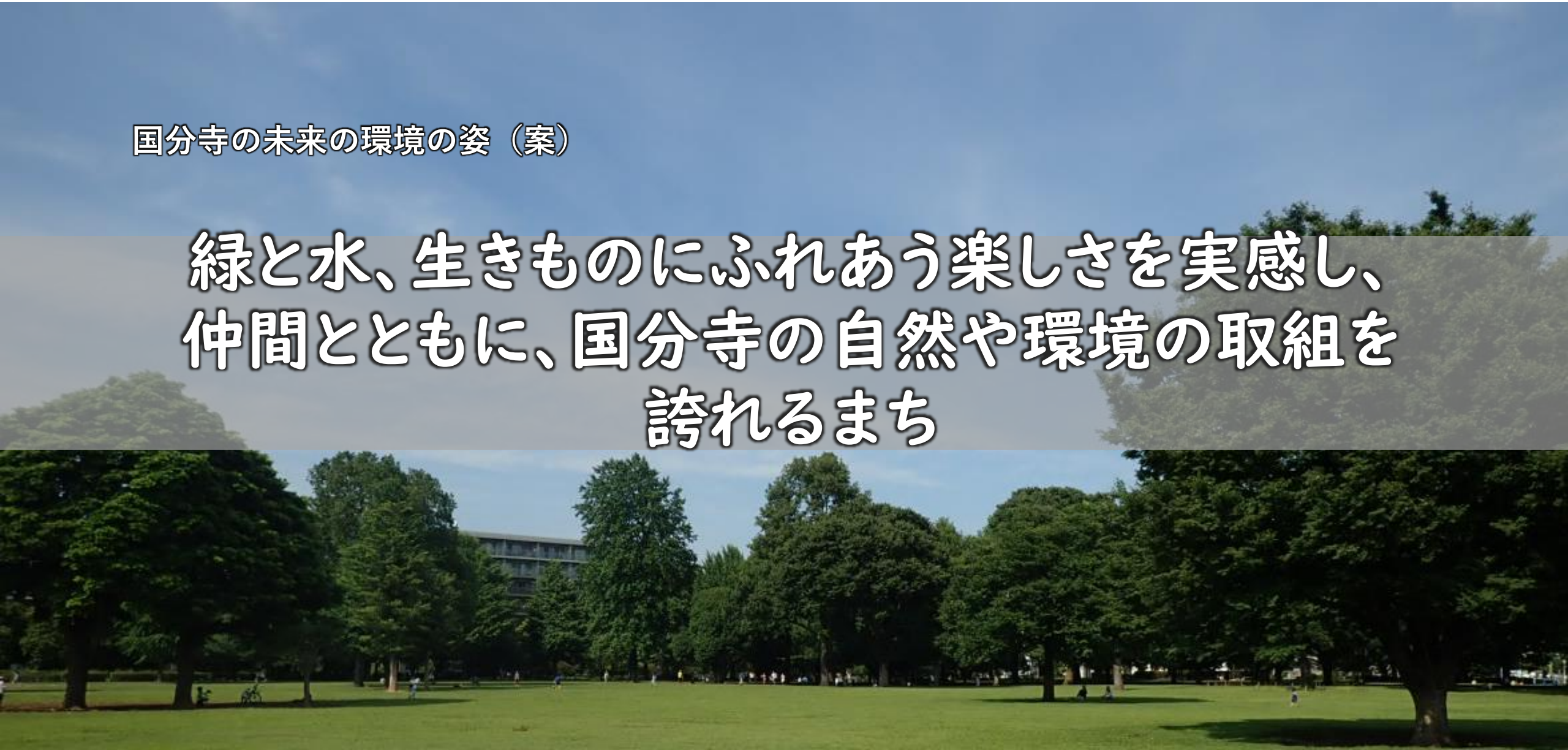
戦略0の基本方針に基づく施策・取組については、

資料6の14ページから17ページをご覧ください。

基本方針ごとに施策の進捗管理の指標（案）を記載しています。

- 基本方針０-２　学びを通じた自分ごと化（気付く）
  - 施策０-２-１　学びの場・体験の場の創出
  - 施策０-２-２　学びの体系化
- 基本方針０-３　自発的な活動（行動する）
  - 施策０-３-１　学びの場・体験の場を通じた人材育成とつながりづくり
  - 施策０-３-２　環境活動の支援
- 基本方針０-４　多様な主体によるパートナーシップの充実・強化（つながる・広がる）
  - 施策０-４-１　多様な主体と連携した環境活動及び魅力のある地域づくりの推進

国分寺の未来の環境の姿（案）に関する検討



国分寺の未来の環境の姿（案）に関する検討

国分寺の未来の環境の姿（案）

緑と水、生きものにふれあう楽しさを実感し、仲間とともに、国分寺の自然や環境の取組を誇れるまち

第３回市民ワークショップ「2050年・2030年のありたい未来の姿」からのキーワード

- **自然環境の分野**
  「水と緑を楽しむ」「きれいな水」「緑豊かなまち」「緑と水を保全」「自然にふれあう場」
- **生活環境の分野**
  「湧水」「豊富な水資源」「人が集い、憩う緑の豊かなまち」
- **循環型社会の分野**
  「クリーンでグリーンなまち」「人間、生きものが共存できる」

第1回・第2回市民ワークショップのキーワード

「市民団体が多い」「マッチング」「学生や子どもの参加」「楽しみながら」「地域と学校の連携」

- **環境教育・環境学習の分野**
  「子どもたち」「自分ごと化」「魅力を感じ」「子どもが誇れる楽しい国分寺」

本日のグループワークの内容

過去４回のワークショップでいただいた意見をもとに作成しました基本戦略の案に対し、「**具体的な取組・目標**」、「**国分寺の未来の環境の姿（全体）**」について**意見・提案をいただき**、**私たちができること・すべきこと**を考えていきます。

≪配布資料≫(A4)

国分寺の未来の環境の姿(全体)
△△△△△△△△△△△△△△

戦略1　○○○○

基本方針1-1　○○○○○○○○

成果指標　○○(現状)→○○(目標)

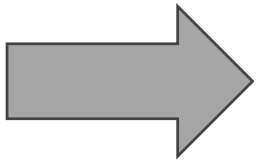
活動指標　○○(現状)→○○(目標)

施策1-1-1　○○○○○○○

取組①　○○○○

取組②　○○○○

意見･提案
私たちができること･すべきこと



≪模造紙≫(A1)

基本戦略(案)

戦略1

戦略2

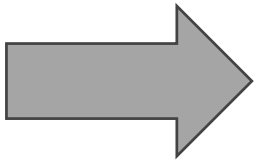
戦略3

戦略0

意見･提案

私たちができること･すべきこと

不足しているキーワードやフレーズ、考え方

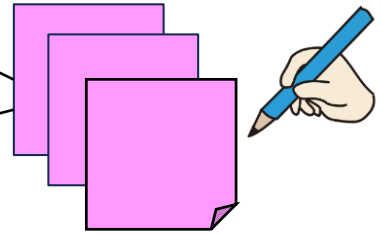


≪模造紙≫(A1)

私たちが考える国分寺の未来の環境の姿とは

(案 ○○○○○○○○○○○○○)

付せんを使っていろいろなアイデアを書き出し、話し合いましょう！



ワークショップの心得

その1　話は短めに

みんなの意見を聞けるように、話過ぎに注意しましょう。

その2　違っていて当たり前

自分と考えが違っていても、それには理由があります。
否定せずに、最後まで聞きましょう。

その3　話がまとまっていなくても大丈夫

会議ではありません、話し合いを楽しみましょう。
「今はまだ考えがまとまらない」という場合は、それを表明すればOKです。